

総括質疑

■秋の宮温泉郷活性化事業について

質疑 宿泊支援事業に関し、客数の推移について伺う。

答弁 令和5年は約23万6千人、そのうち地元企業の3施設では約1800人ほどになる。



「政和会」
高橋 克己 委員

予定していたが、個別の宿泊施設を対象とした事業という取り扱いをしていなかったために秋の宮山荘との個別協議は行わなかった。観光体験事業では、雪下ろし体験などを計画していたが、記録的な暖冬により、事業を中止したところなどにより、大幅な減額や執行未済が発生する結果となった。課題については、引き続き優先的に取り組むべき課題であり、令和6年度の確実な事業実施に向けて取り組んでいきたい。

質疑 観光PR事業の参加者数等について伺う。

答弁 60歳以上の女性を中心に定員を満たす参加があった。

質疑 登山道の災害復旧の状況について伺う。

答弁 関係各所と情報を共有し、早期復旧に向け要望を継続している。

質疑 旧温泉プールと隣接の建物が未だに残っている。整理を考えているか伺う。

答弁 財産区にも関係するので、協議の上、進めたい。

質疑 この場所から川辺までに釣り堀やキャンプ場などを整備することで、子どもたちが遊べるよい環境づくりができると思うが見解を伺う。

答弁 周辺との面的な広がりやを考慮し、検討する。

■消防施設整備事業について

質疑 消防団員数の現状と推移について伺う。

答弁 令和6年4月1日現在の団員数は1378人、平均年齢49・2歳となっている。

質疑 高齢化が進む中、消防団員の定年延長の検討はあるのか伺う。

答弁 機能別団員制度を平成30年度から採用しており、現在69名の協力を得ている。定年延長は消防団との協議等を踏まえ検討する。

質疑 小型ポンプ付積載車の配備状況について伺う。

答弁 44台の積載車が配備されている。今年度新たに1台を配備する。今後の配備については第Ⅱ期消防力整備推進計画に基づき進めていく。

「湯沢政策研究会」
藤田 健志 委員



■未来投資型人材育成事業について

質疑 この事業に対する費用対効果について伺う。

答弁 アンケートの回答や奨学金返還助成申請者数が増加傾向にあることから、本事業については、一定の効果があると認識している。

質疑 事業の予算約900万円で対し、未執行額が約270万円であることから、想定した成果を得られなかったのではないかと考えるが見解を伺う。

答弁 奨学金返還助成制度に関して、奨学金の利用見込みを過大に見積もったことが要因と考えているが、希望する学生には助成を行うことができ、一定の成果はあったと考える。

質疑 学生に対する様々な施策を展開していく中で、市長が目指す将来像を伺う。

答弁 学生を含む若者は、湯沢の将来に大切な戦力であり財産であると認識している。今後若者の定住、人口減少対策に力を入れていきたいと考えている。

